内視鏡外科手術チームにおける臨床工学技士の役割

近畿大学医学部附属病院 臨床工学部

古田 朋之

【はじめに】

内視鏡外科手術はチーム医療であり、当院でも機器更新を機に 2007 年に診療科別管理から 各科共通での使用・管理を行うことを目的に医師、看護師、臨床工学技士、医事課を交えた多 職種ワーキンググループ(以下 WG)を立ち上げ、内視鏡関連機器における安全使用、および 効率的な運用を目指しチームで取り組んできた。

【取り組み】

2007年8月より機器の共有化を図り、WG に意見を取りまとめ、機種選定および購入決定する仕組みを確立した。また、臨床導入以降は機器使用から使用終了、そして洗浄・滅菌後などの9つプロセスにおける異常確認を行い、各プロセスに関わる多職種によるトレーサビリティ体制を確立し、術中トラブルの削減を図った。その他にも多職種間にて機器の安全使用を目的に定期的な研修の実施およびトラブル事例について共有・検討する体制を整えた。

【効果】

チームとして取り組むことで、問題点や情報を共有することができ、トラブル減少につながった。また、トラブル時の初動と機器運用の効率性が向上した。

【結語】

チーム医療によるトータルマネジメントは、他職種間で連携をとることが重要であり各職種がその役割を果たす必要がある。これからは、我々の役割も、他職種が担う各プロセスの評価や改善を行う、補完的な役割へと変化していくと考えられる。